



このたび高知県立大学文化学部では学部改組20周年記念事業として『大学的高知ガイド—こだわりの歩き方』(昭和堂、2019年3月)を刊行いたしました。刊行記念として、2019年7月20日に記念シンポジウム「高知の地域文化資源の再発見」を開催し、地域文化資源の整備・保存および活用・情報発信等の意義を改めて検討します。

シンポジウムは、第1部の基調講演で地域文化資源再発見の意義について検討し、第2部のパネルディスカッションでは、地域の有識者に様々な実践例を紹介していただきながら、出版を含めた情報発信のあり方について検討していきます。

## プログラム

### 13:30～14:30 第1部 基調講演 うしなわれゆく土佐文化

— 今、私たちにできること —

講師 渡部 淳氏 (高知県立高知城歴史博物館館長)

14:30～14:40 質疑応答

14:40～15:00 休憩

### 15:00～16:30 第2部 パネルディスカッション 地域文化をどう伝えるか

パネリスト 吉尾 寛氏 (高知大学名誉教授)

(発表順) 楠瀬 慶太氏 (高知新聞社学芸部記者)

三浦 要一氏 (高知県立大学文化学部長)

渡部 淳氏 (高知県立高知城歴史博物館館長)

司会 橋尾 直和氏 (高知県立大学文化学部教授)

## 基調講演 講師プロフィール

### 渡部 淳 (わたなべ じゅん)氏

高知県立高知城歴史博物館館長。専門は日本近世史(初期政治史・絵図史)。

1962年大分県生まれ。高知大学人文学部から名古屋大学大学院(史学・地理学専攻)博士後期課程修了。1995年(財)土佐山内家宝物資料館学芸員採用、副館長を経て館長。2016年より現職。

著書・論文:『検証・山内一豊伝説—「内助の功」と「大出世」の虚実—』(講談社現代新書)、『九州筑紫領・松浦領における豊臣刀狩令の年紀比定』(『日本歴史』567号)、『土佐山内氏豊後国化粧料について』(『大分県地方史』159)、『土佐山内家と譜代大名・旗本—領主間の金融融通をめぐって—』(『四国の大名—近世大名の交流と文化—』岩田書院)など。



## パネルディスカッション 登壇者プロフィール



### 吉尾 寛 (よしお ひろし)氏

高知大学名誉教授、同人文社会科学部特任シニアプロフェッサー。専門は中国近世近代史で、高知県出身の漢学者山本憲に送られた清朝末期の梁啓超等変法派の書簡の解説作業を進めるとともに、現在は黒潮流域圏交流史の観点から戦前の台湾への高知県漁民の移住の実情について調査している。

著書・論文:『明末の流賊反乱と地域社会』(汲古書院、2000)、『民衆反乱と中華世界』(編著 同、2012)、『海域世界の環境と文化』(編著 同、2011)、『変法派の書簡と『燕山楚水紀遊』』(編著 同、2017)、『戦前の移住地に映る高知県漁民の暮らし』(『大学的高知ガイド』昭和堂 2019)他多数。



### 楠瀬 慶太 (くすのせ けいた)氏

高知新聞記者。専門は、日本中世史、日本村落史。「第40回平尾学術奨励賞」受賞。

1984年香美市生まれ。九州大学大学院比較社会文化学府修士課程修了。2009年に高知新聞入社、窪川支局長などを経て現在学芸部で歴史民俗分野を担当。

休日には、歴史学・民俗学の手法を使った地域資源の掘り起こしや地域活動の支援に取り組む。高知工科大学客員研究員、棚田学会評議員。著書・論文:『限界集落化の歴史のプロセスに見る山村の未来』『政策経営研究』2009.vol.1、「地域再生の歴史学」『地方史活動の再構築』(雄山閣)、「地域資源としての地名」『地名と風土』13など。



### 三浦 要一 (みうら よういち)氏

高知県立大学文化学部教授・学部長。専門分野は、日本建築史・都市史。研究テーマは、歴史的建造物の保護と活用、伝統的集落・町並みの保存と生活空間計画、日本の都市空間に関する住居史的・都市史的研究。

### 司会 橋尾 直和 (はしお なおかず)氏

高知県立大学文化学部教授。専門分野は、日本語学・方言学・言語学。研究テーマは、地域言語の文化環境言語学的研究、東アジアにおける琉球・アイヌ・ヤマトの比較・対照文化言語学的研究。

